



三菱食器洗い乾燥機 据付説明書

形名

EW-45LD1MU



※イラストは、脚ユニット・面材が付いていない状態です。

もくじ

安全のために必ずお守りください	2
1 各部の名称と寸法	4
2 設置場所について	7
3 給・排水工事について	8
4 電気工事について	11
5 電圧の確認	12
6 据付け手順	12
7 給湯(給水)管・排水ホースの接続	22
8 部品取り付け方法	23
9 自動ドアオープンの確認	23
10 据付け後の確認(チェックリスト)	24
11 試運転	25
12 試運転後の作業	27
お客様への説明	29

販売店・据付業者様用

この据付説明書は据付け終了後、
お客様へ必ずお渡しください。

<据付けをされる方へのお願い>

●この据付説明書の内容に沿って、正しく取り付けてください。
据付説明書の内容に従わずに取り付けを行った場合に発生した事故・損害は、一切責任を負えません。

- この製品は、(一般財団法人)電気安全環境研究所(JET)より『給水装置の構造及び材質の基準に関する省令(厚労省令)』に適合するとの証明を受けています。給水装置への接合に際し、逆止弁などの設置の必要はありません。なお、JETは、厚労省の「給水装置に係る第三者認証機関の業務等の指針」に示された要件を備えた第三者機関のひとつであり、他に(公社)日本水道協会などがあります。
- 給水装置工事(配管工事)は、各市町村にて施工承認を受けた後、指定工事業者が施工してください。
- 必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。特に温泉水・地下水・井戸水のご使用は水道法の定める水質基準に適合しているか確認のうえ、ご使用ください。(不具合が発生した場合、保証期間内でも無償保証できません)
- この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために正しい据付けが必要です。据付け前に、この据付説明書を必ずお読みください。
- 据付け終了後、直ちに「据付け後の確認(チェックリスト)」と「試運転」に基づいて、必ず再確認を行ってください。
- 据付けに関して不明な点がありましたら、お買上げの販売店へご相談ください。

<本書に記載のマークについて>



このマークがある作業は電動ドライバーを使わず、必ず手締めしてください。電動ドライバーを使用すると、破損のおそれがあります。

●この説明書では、イラストを簡略化しておりますので製品と一部異なります。

安全のために 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次のように説明しています。

■誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

	警告	死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
	注意	軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの

■図記号の意味は次のとおりです。

	禁止		分解禁止
	火気禁止		ぬれ手禁止
	水かけ禁止		アース線を必ず接続せよ
	指示を守る		

警告

- 電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない
(傷付けたり、加工したり、高温部に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、重いものを載せたり、束ねたりしないでください) 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因
・コードやプラグの修理は、お買上げの販売店へご相談ください。
- コンセントの差し込みがゆるいときや、電源コードや電源プラグが傷んでいるときは使用しない
感電・ショート・発火の原因
・お買上げの販売店に点検・修理を依頼してください。
- コンセントを床面にころがして、電源プラグを差し込み使用しない
感電・漏電や火災の原因
- 電源コードを切断したり、屋内配線ケーブルと直結したりしない
感電・漏電や火災の原因
- 延長コードは使用しない
発熱による火災の原因

警告



- 排水ホース・給水ホース・電源コード・アース線を転倒防止金具・本体の底面や脚との間に挟み込んで傷付けない
感電・漏電・火災や水漏れの原因
- ビルトインのとき、電源コード・アース線・排水ホース・給水ホースに傷を付けない
感電・漏電・火災や水漏れの原因
- 交流100V以外では使用しない
火災・感電の原因



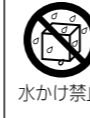
- 分解したり修理・改造しない
発火したり異常動作して、火災・感電・けがの原因
・修理は、お買上げの販売店またはお近くの「三菱電機ご相談窓口・修理窓口」にご相談ください。



- 火のついたローソク、蚊取り線香、煙草などの火気や、揮発性の引火物を近づけない
変形や火災の原因



- ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない
感電の原因



- 水につけたり、水をかけたりしない
ショート・感電の原因



- アースを確実に取り付ける
故障や漏電のときに感電する原因
アース接地工事は、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って第二種電気工事士*がD種接地工事を行う
(アース工事は、お買上げの販売店または電気工事店にご相談ください)



- 電気配線工事は、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って第二種電気工事士*が施工し、必ず専用回線を使用する
電源回路容量不足や施工不備があると、漏電・感電・火災の原因
- 据付けは、お買上げの販売店または専門の据付業者に依頼する
据付けには専門の知識と技術が必要です。お客様自身で据付けされ不備があると、水漏れや感電・火災・事故の原因
- 定格15A以上のコンセントを単独で使う
他の機器と併用すると、発熱による火災の原因
- 電源プラグは刃及び刃の取付面にほこりが付着している場合はよく拭く
火災の原因
- 電源プラグは根元まで確実に差し込む
差し込みが不完全だと、感電や発熱による火災の原因
・傷んだプラグ・ゆるんだプラグは使用しないでください。
- 電源プラグはコードが下方向に出るよう、コンセントに奥まで確実に差し込む
上方向に出すとプラグの接触が不安定になり、異常発熱して発火する原因

※工場・ビル等への配置で、一定要件を満たす場合は第一種電気工事士

注意



- 凍結のおそれがある場所(室温0℃以下)へは設置しない
水漏れの原因
- 元止め式湯沸し器には接続しない
湯沸し器からの水漏れの原因
- 止水栓が開いた状態のときは、本機(食器洗い乾燥機)への通電(ブレーカーなど)は切らない
本体の異常監視ができなくなる原因
・試運転終了後、本機への通電(ブレーカー)を切る場合は、必ず止水栓を閉めてください。
※引き渡しまで日数がある場合、引き渡しまで止水栓を必ず閉めてください。
止水栓を開く時は、通電してから開いてください。
- 排水ホースは切断しない
水漏れの原因

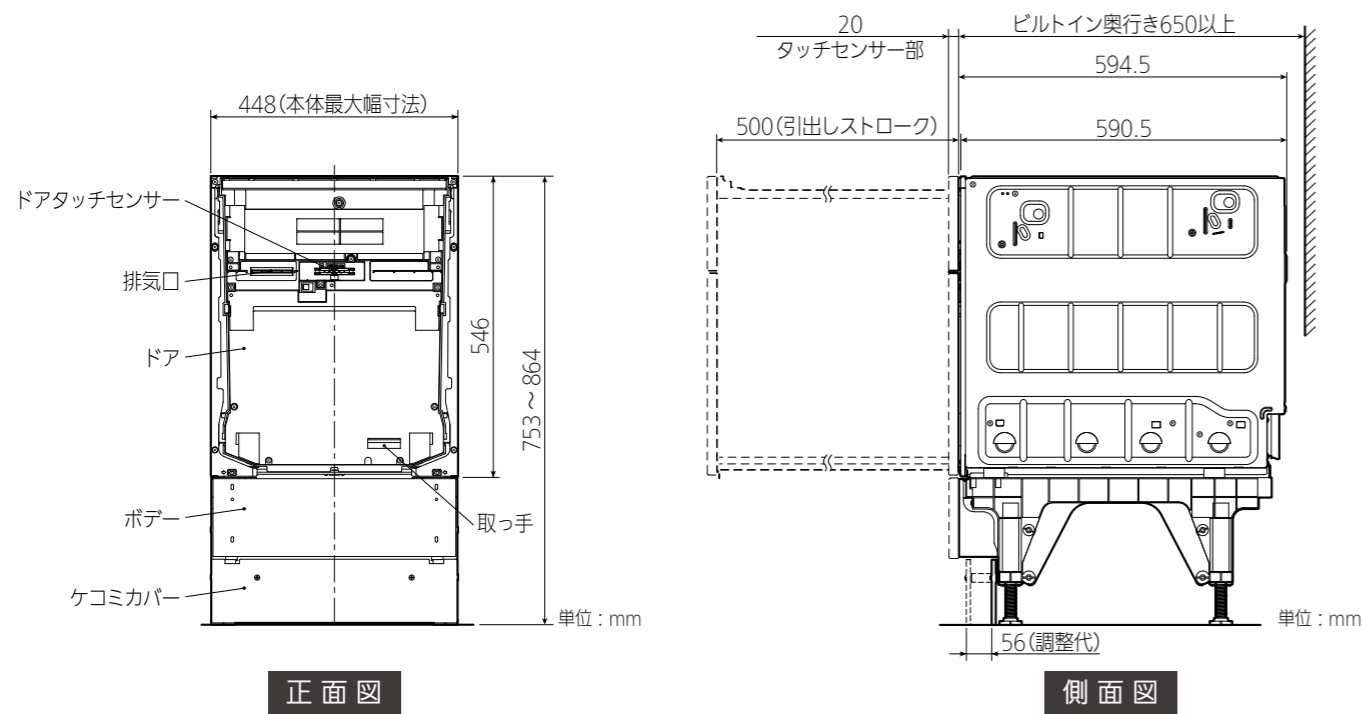


- 上下水道直結の配管工事は、当該水道局(水道事業者)指定の給水装置工事業者が、指定された配管材料を使用して施工する
配管破損による水漏れの原因
- 据付け部品は、必ず付属部品および指定の部品を使用する
当社指定部品を使用しないと、事故の原因
- 高水圧地域では、減圧弁を必ず取り付ける
水漏れの原因
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って抜く
感電・ショート・発火の原因
- 必ず転倒防止金具と前ズレ防止金具を取り付ける
落下によるけがの原因

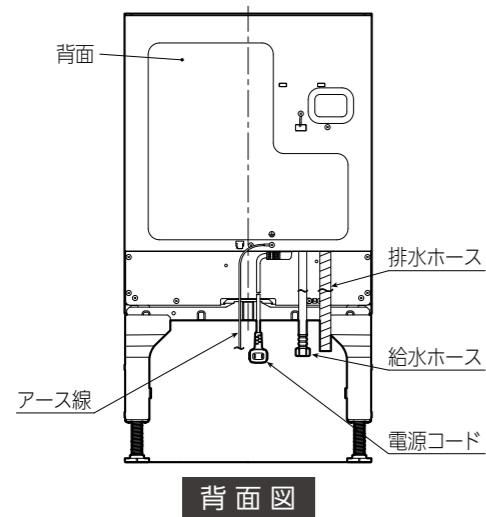
1 各部の名称と寸法

●本体および、かごのテープやダンボールなどは全部取り外してください。

本機は、奥行き600mmのキッチンには設置できません。



消防法 基準適合 組込形
(離隔距離については、0cmで消防法の基準に適合しております)



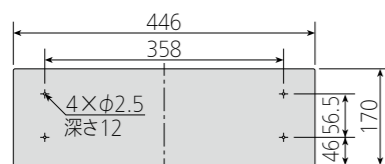
別売品(ドア・ボデー用面材)は、事前に寸法をご確認ください。

単位: mm

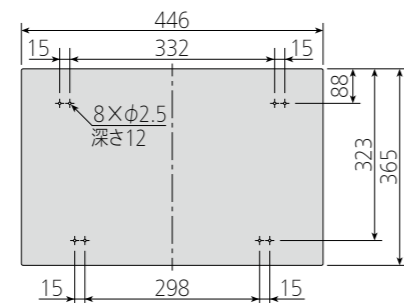
●面材寸法とネジ下穴寸法

面材厚さ t = 18
※厚さ t = 15 を使用すると、ドアタッチセンサー・排気口が面材より突出します。

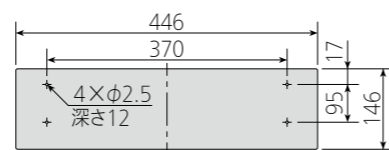
【ドア上面材】



【ドア下面材】

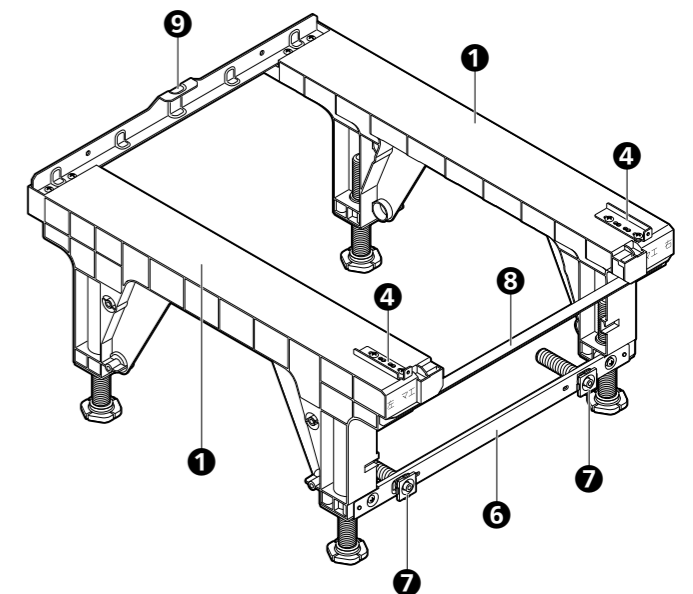
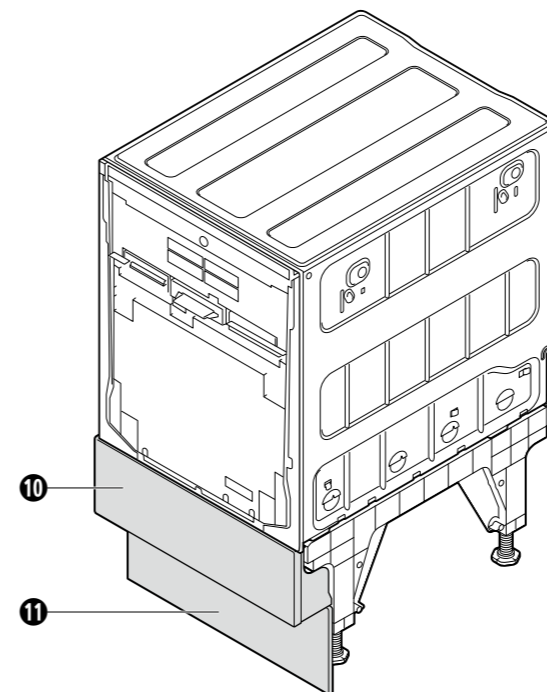


【ボデー用面材】



1-1: 付属品の確認と使用箇所

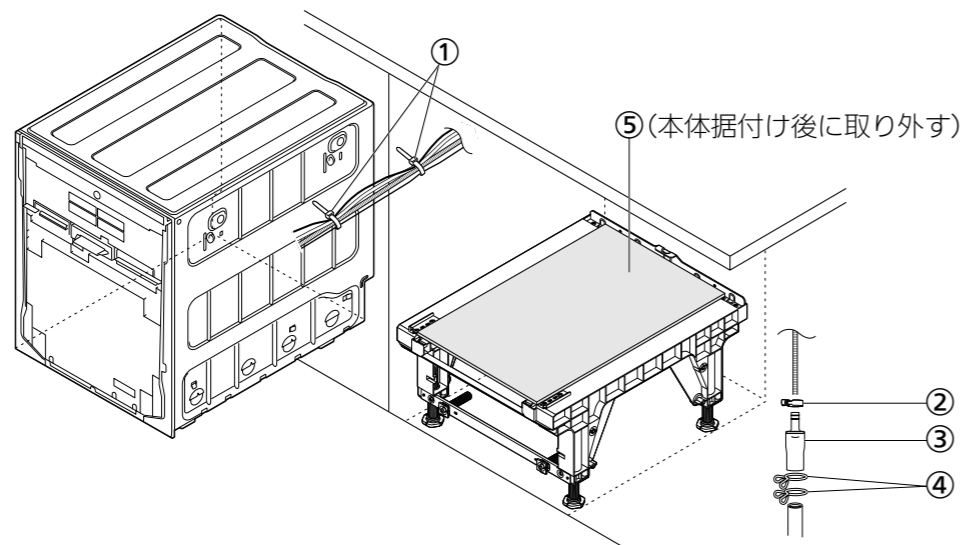
脚ユニット組み立て用付属品			
① 台枠(調整脚付き) (左右各1個)	② 調整脚固定金具(各1個)	③ 調整脚固定用木ネジ(6本) (5×16)	④ 前ズレ防止金具(左右各1個)
⑤ 棒先ネジ(2本)	⑥ 前つぎ板1(1個)	⑦ 調整ネジ(2本)	⑧ 前つぎ板2(1個)
⑨ 転倒防止金具(1個)	⑩ ボデー(1個)	⑪ ケコミカバー(黒・白各1枚)	⑫ ケコミカバー固定用ネジ (黒・白各2本) (4×14)
⑬ 木ネジ(4本) (4×30)	⑭ 固定用ネジ(12本) (4×14)		



1 各部の名称と寸法 (つづき)

■据付けに必要な付属品

① 結束帯(2本)	② ホースバンド(小) (1個)	③ 排水ジョイント(1個)
④ ホースバンド(2本)	⑤ ダンボール板(1枚)	



■面材取り付けに必要な付属品

● 上部面材取り付け金具 (2個)	● 下部面材取り付け金具 左・右(各2個)	● 固定用ネジ(16本) (4×12)
● 金属用ネジ(8本) (4×10)	● 高さ調整スペーサー※ (両面テープが付いています)	ポデーへの面材取り付けで4本使用します。

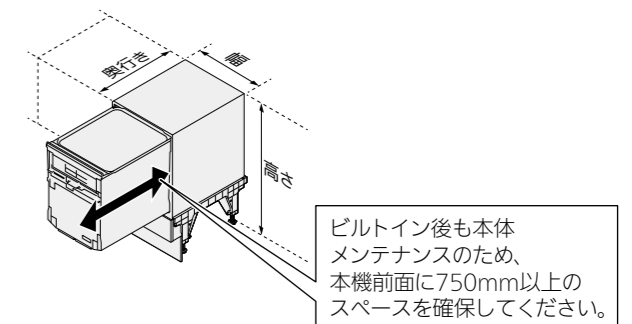
■同梱品

取扱説明書 … 1部
 据付説明書 … 本書
 保証書 …… 1部

2 設置場所について

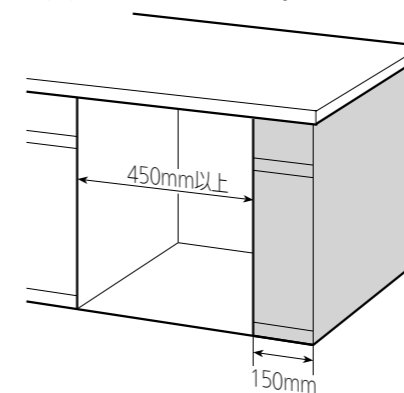
- 脚ユニットが設置されることを前提にしています。
- ビルトイン奥行650mm以上のキッチンに設置してください。奥行600mmのキッチンには設置できません。

収納キャビネット寸法		
奥行き	650mm以上	
幅	450mm以上	
高さ	キッチンの高さ	カウンター下面から設置面までの高さ
	900mmの場合 ▶	860mm以上
	850mmの場合 ▶	810mm以上
	800mmの場合 ▶	760mm以上



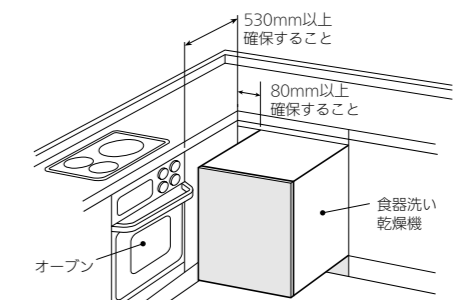
片側がフリーの場合

- 幅150mmキャビネットなどを使用して、カウンターを支える処理をします。



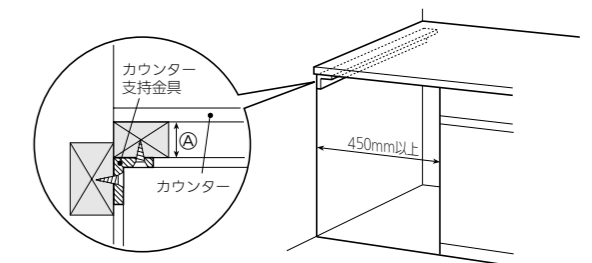
L型コーナーの場合

- 本機のドアを開閉する際にオープンなどの取っ手部に当たり、故障修理の際に本機が引き出せない場合があります。ドア開閉のスペースを確保してください。



片側が壁面または、トルユニットの場合

- カウンター支持金具は、市販のL金具を使用します。
 ※締結ビスの長さは、右図のⒶ寸法より5mm以上短くし、カウンターの金属部に接触させないでください。
 法令：電気設備の技術基準の解釈



- ビルトイン型加熱機器などと並べて設置すると、カウンター上に荷重をかけた場合、たわむことがありますので、補強処置をしてください。(市販のL金具を使用します)

お願い

- 法令義務により、本機やキッチンの金属部分は、家屋の壁中のラスや金属板に、電氣的に接触しないようにしてください。
 法令：電気設備の技術基準の解釈

3 給・排水工事について

■本機が使用できる水道水圧は0.03～1MPa (0.3～10kgf/cm²)の範囲ですが、配管の状態によっては圧力が上昇する場合がありますので、0.6MPa(6kgf/cm²)を超える場合は減圧弁を取り付けてください。

■必ず、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。特に温泉水・地下水・井戸水のご使用は、水道法の定める水質基準に適合しているか確認のうえ、ご使用ください。(不具合が発生した場合、保証期間内でも無償保証できません)

■本機は(一般財団法人)電気安全環境研究所(JET)より「給水装置の構造及び材質の基準に関する省令(厚労省令)」に適合するとの証明を受けています。給水装置への接合に際し、逆止弁などの設置は必要ありません。各市町村の条例などにより、逆止弁を取り付ける場合で、本機の配管の近傍にシングルレバー水栓がある場合は、以下の対応のいずれかを実施してください。

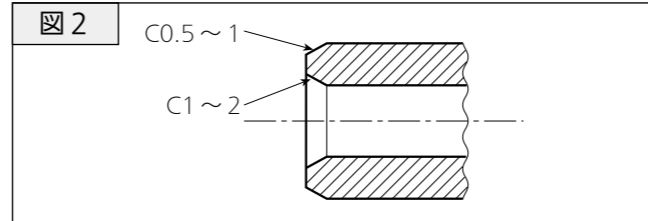
- シングルレバー水栓の配管に減圧弁か、ウォーターハンマー防止器を取り付けてください。
- 本機の配管に減圧弁を取り付けてください。(水栓の急閉止時のウォーターハンマー現象により、逆止弁の下流側の本機や、本機の配管に異常な高水圧がかかり、本機の故障や水漏れの原因となるためです)

■本機は配管直結タイプですので、設計及び施工工事の段階で、給・排水の位置決めを正確にしてください。

- 給湯(給水)管は、硬質塩化ビニルライニング鋼管(相当品)を使用して、断熱材を巻いてください。
- 排水横枝管に至るまでの接続部分は、耐熱塩化ビニル管(HT相当品)を使用してください。
- 配管用接着剤は、耐熱用を使用してください。
- 給・排水配管の端面は、バリの無いよう処理し、かつ管内に残っている異物(切り粉など)を完全に取り除いてください。
- 止水栓(ハンドル形、固定ゴマタイプ)を必ず取り付けてください。

※冬季長期間留守にし、凍結が心配される地域に設置される場合は、水抜き栓を有した寒冷地仕様の止水栓を取り付けてください。(図1参照)

- 排水管HT20の端面内周に、面取り(C1～2)を施してください。外径外面側は面取り(C0.5～1)を付けると、ホースの挿入が容易になります。(図2参照)



お願い
元付け型の浄水器に接続すると、残留塩素濃度が0.1ppm未満(水道法基準は0.1ppm以上と規定されている)となり屋内に給水される水が細菌などに汚染される(バクテリアが繁殖)おそれがあります。必ず、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。(不具合が発生した場合、保証期間内でも無償保証できません)

給湯機について

- 給湯は中型以上の深夜電力利用温水器、石油給湯機、10号以上の先止め式給湯機などで、60℃以下の温度に調整可能な機器に接続してください。調整不可能な給湯機の場合は、温度調節器(ミキシングバルブ)の接続をしてください。
- 小型深夜電力利用温水器には、接続しないでください。本機へ給水されないおそれがあります。

⚠ 注意

⊘

- 元止め式湯沸し器には接続しない
湯沸し器からの水漏れの原因

禁止

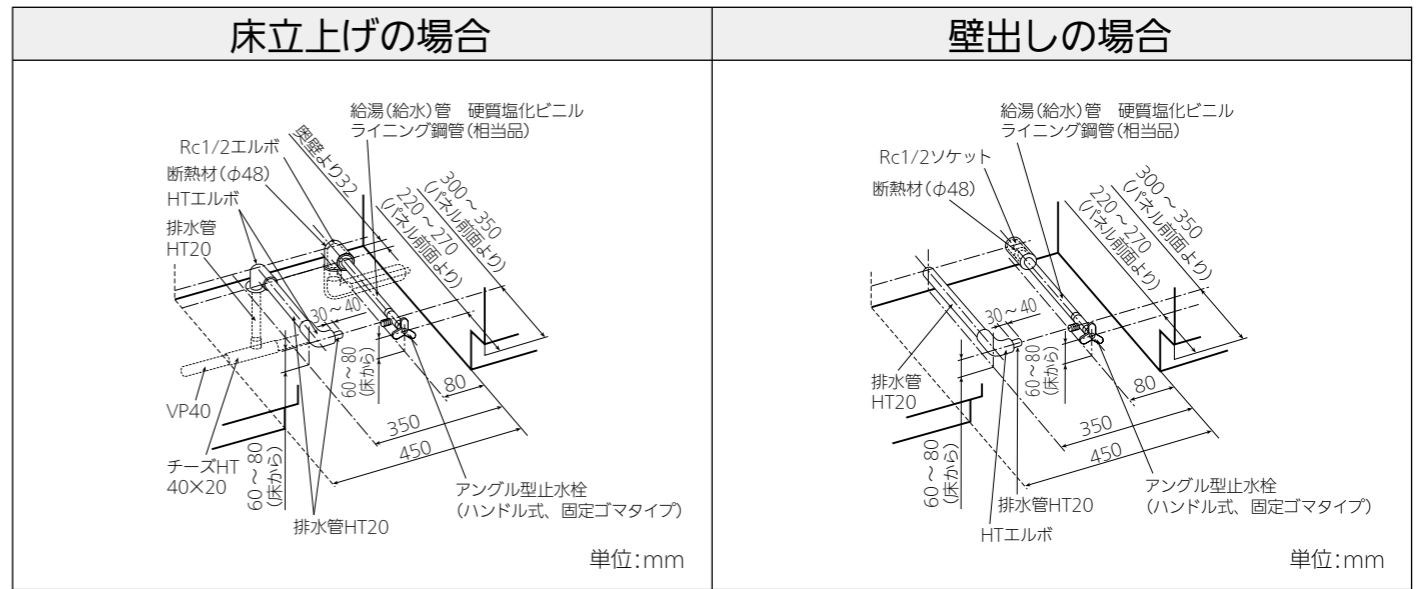
⚠ 注意

- !

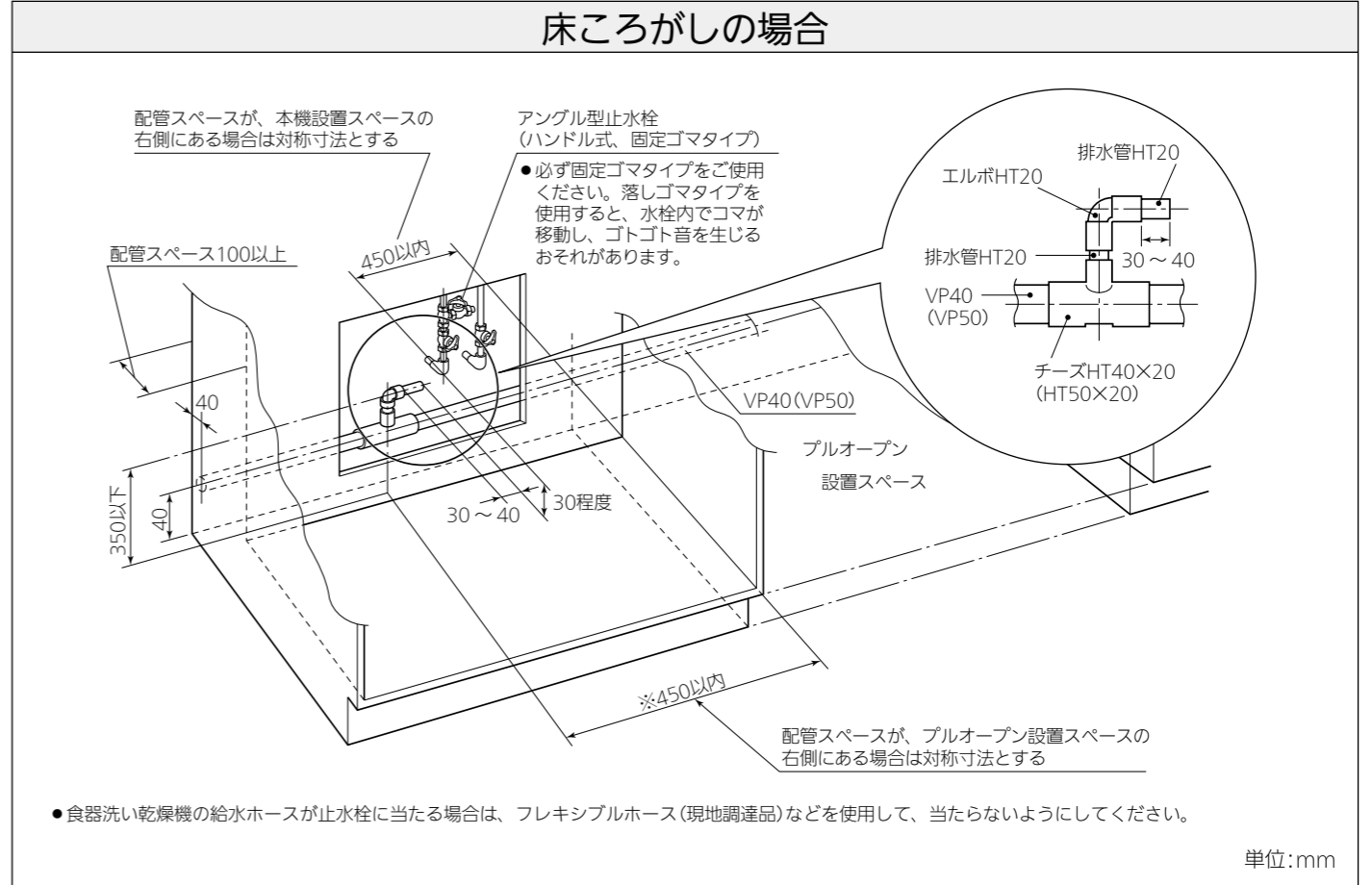
 - 高水圧地域では、減圧弁を必ず取り付ける
水漏れの原因
 - 上下水道直結の配管工事は、当該
水道局(水道事業者)指定の給水装置
工事業者が、指定された配管材料を
使用して施工する
配管破損による水漏れの原因

■下記配管例以外の施工をする場合は、お買上げの販売店にご相談ください。

食器洗い乾燥機設置キャビネット内での配管例



近接するシンクキャビネット背面に点検口を有する配管例 ※集合住宅などに多いタイプです。



3 給・排水工事について (つづき)

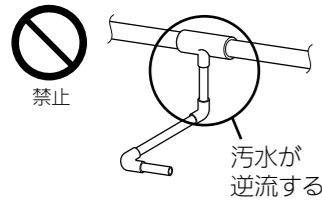
給・排水管の施工位置について

収納キャビネットの種類によっては、給・排水管の位置が本機の据付説明書と異なる場合があります。
※必ず、収納キャビネット側のカタログまたは施工図面、設置説明書などに基づいて施工願います。

悪い排水配管例や接続例

下図のような配管及び接続をすると、十分に排水できなかつたり、機器に逆流したり、水漏れするおそれがあります。

- チーズ下向け設置



- 排水ホースを折り曲げない

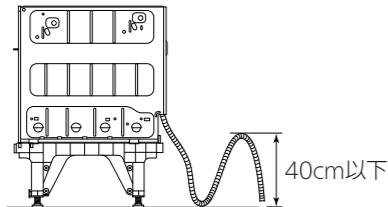


注意

- 排水ホースは切断しない
水漏れの原因



- 排水ホースの高さは40cm以下にする



4 電気工事について

電気配線工事は、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って、電気工事士が行ってください。

- 電源回路は100V、15A以上の専用回路が必要です。
- 本体を設置する場所の背壁に、給・排水工事部分を避けた箇所に埋め込みボックスを設け、これに電源電線、アース線を接続します。
- コンセントは定格表示125V、15Aのアースターミナル付埋め込みコンセントを使用してください。(コンセントは壁面に必ず固定します)
- アース工事を必ず行ってください。(アースは法令上必要です)
- 200Vを使用すると、基板の電流ヒューズが切れ、使用できなくなります。無償保証できません。

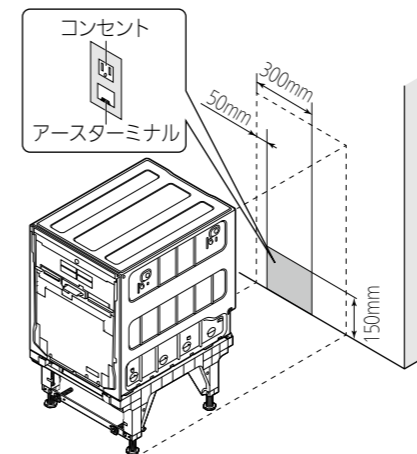
アース(接地)のしかた

- 感電事故防止のため、必ずアースの取り付けをしてください。電気設備技術基準に基づき、必ず電気工事士によるD種接地工事を行ってください。(法令で規定されています)
- ガス管や水道管、電話や避雷針のアース回路および漏電遮断器を入れた他の製品のアース回路には、接続しないでください。(法令で禁止されています)
- アース端子付きコンセントを利用される場合は、接地抵抗値(100Ω以下)をご確認ください。
- 設置場所の変更やご転居の際には、必ず再度アース取り付けを行ってください。

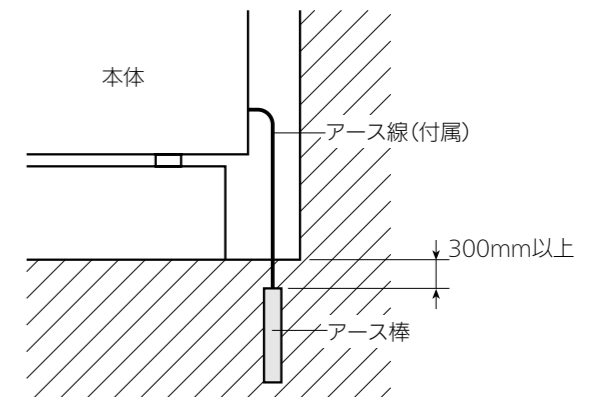
※ご不明な点は、お買上げの販売店または電気工事店にご相談ください。

- アース端子付きコンセントを使用の場合

※コンセントは壁面の決められた位置に必ず固定してください。(下図参照)



- アース棒を使用の場合



警告

- 交流100V以外では使用しない
火災・感電の原因
- アースを確実に取り付ける
故障や漏電のときに感電する原因
アース接地工事は、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って第二種電気工事士*がD種接地工事を行う(アース工事は、お買上げの販売店または電気工事店にご相談ください)
- 定格15A以上のコンセントを単独で使う
他の機器と併用すると、発熱による火災の原因
- 電気配線工事は、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って第二種電気工事士*が施工し、必ず専用回線を使用する
電源回路容量不足や施工不備があると、漏電・感電・火災の原因

※工場・ビル等への配置で、一定要件を満たす場合は第一種電気工事士

漏電遮断器の設置について

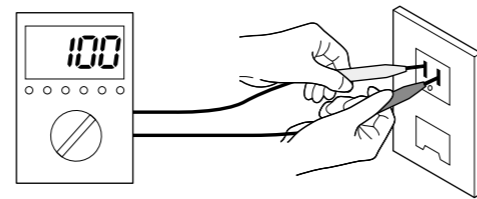
万一の漏電事故時の安全確保のために、漏電遮断器の設置が必要です。

※なお、主幹に漏電遮断器が設けられている場合は、漏電遮断器を設置する必要はありません。

電源回路は、食器洗い乾燥機専用回路とし、他機器との併用はしないでください。

5 電圧の確認

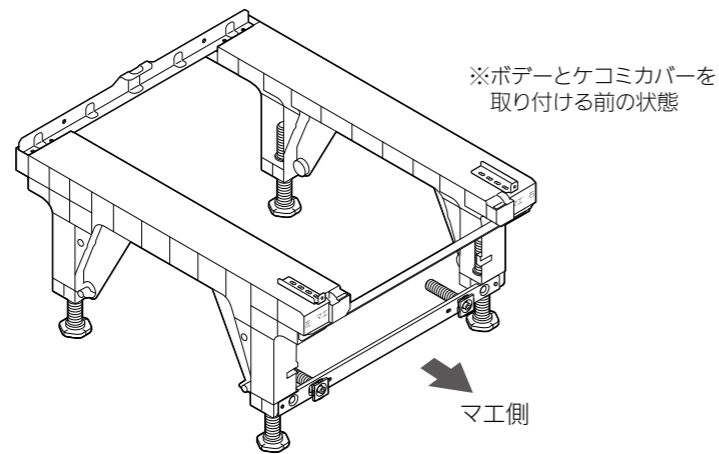
- 1 電圧が100Vであることを確認する
 ※200V電源を使用すると、瞬時に故障します。



6 据付け手順

※電動ドライバーは使用せず、手で締めてください。

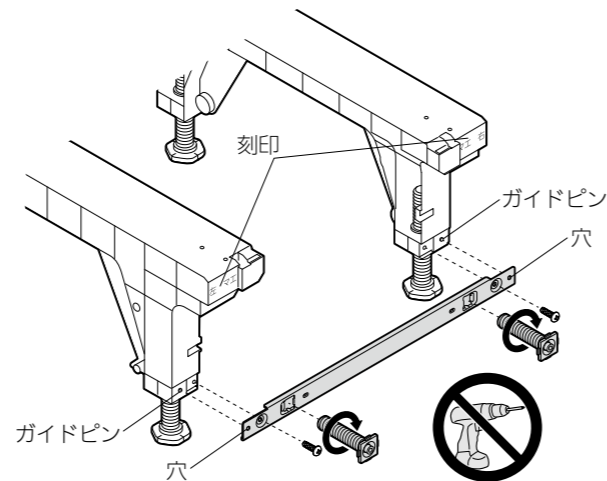
脚ユニットの完成図



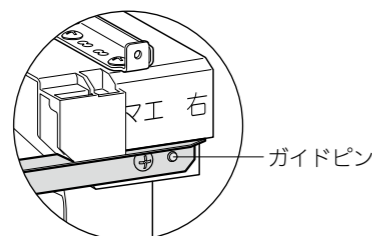
6-1 : 脚ユニットの組み立て

- 1 ①前つぎ板1に、調整ネジ2本を中程まで取り付ける
 ②台枠のガイドピンに、前つぎ板1の穴をあわせ、固定用ネジ(4×14)2本で取り付ける

※台枠の刻印(左マエ、右マエ)を確認してください。

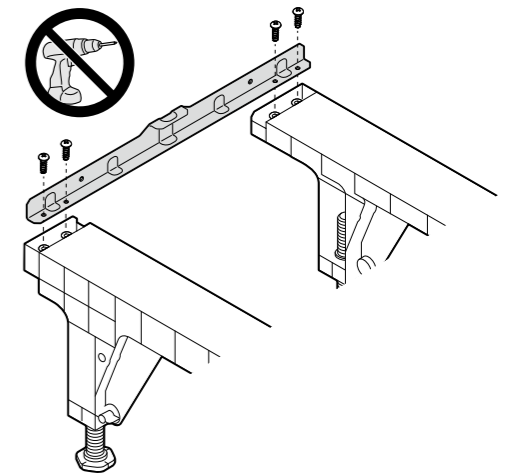
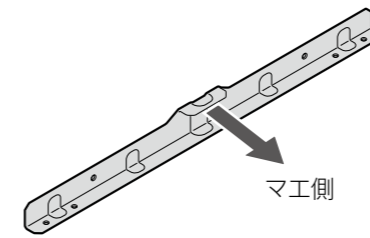


- 2 前つぎ板2の上下方向を下図で確認し、台枠のガイドピンに、前つぎ板2の穴をあわせ、固定用ネジ(4×14)2本で取り付ける



6-2 : 転倒防止金具の取り付け

- 1 転倒防止金具の前後方向を下図で確認し、固定用ネジ(4×14)4本で取り付ける



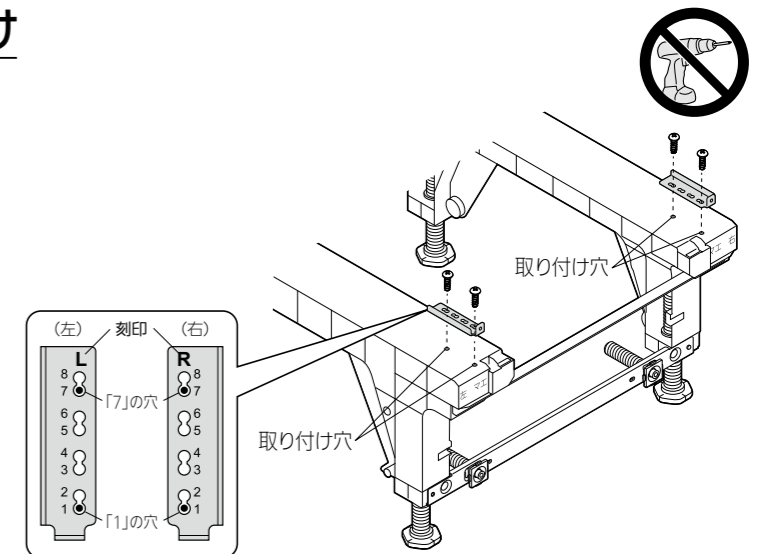
6-3 : 前ズレ防止金具の取り付け

- 1 台枠の取り付け穴に、左右それぞれ固定用ネジ(4×14)2本で取り付ける

- 前ズレ防止金具は「1」と「7」の穴の位置でネジを固定してください。

⚠ 注意

- 必ず転倒防止金具と前ズレ防止金具を取り付ける
落下によるけがの原因

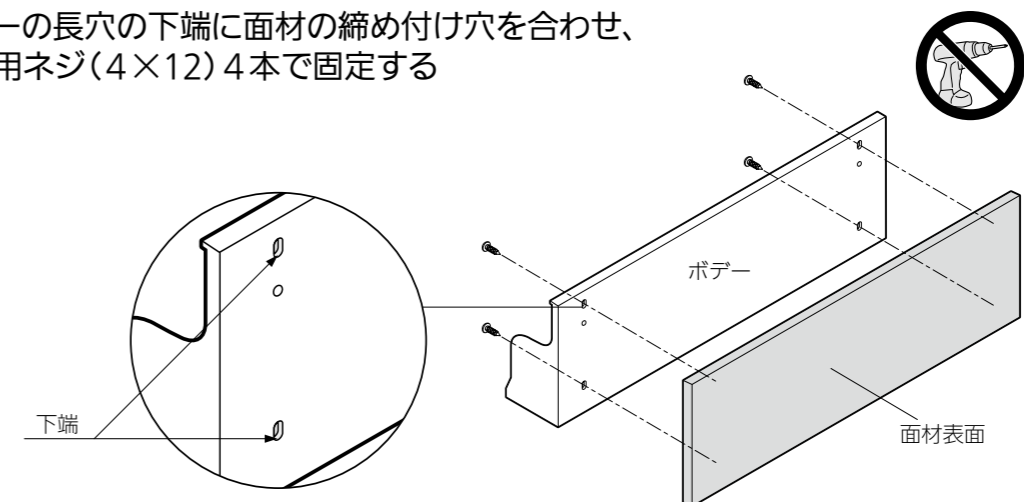


※前ズレ防止金具の刻印(L(左)、R(右))を確認してください。

6-4 : 面材のボデーへの取り付け

※面材は別売品です。寸法はP.4をご覧ください。

- 1 ボデーの長穴の下端に面材の締め付け穴を合わせ、固定用ネジ(4×12)4本で固定する



6 据付け手順 (つづき)

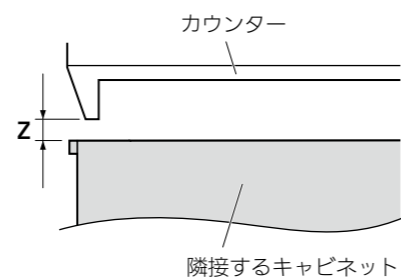
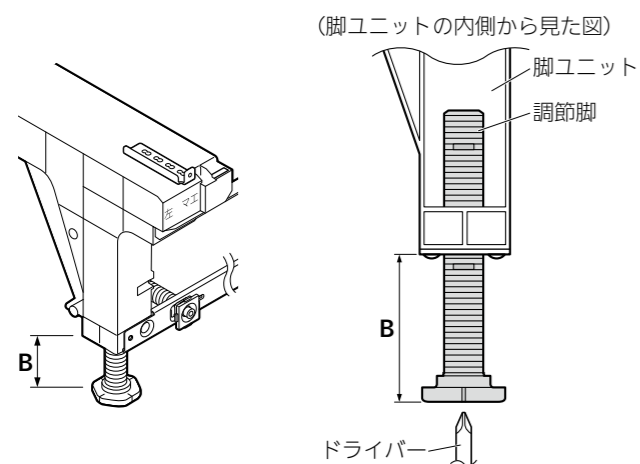
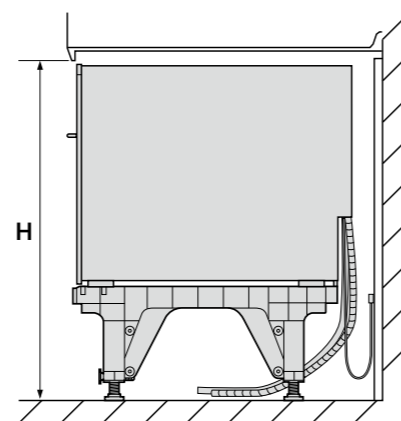
6-5 : 脚ユニットの高さ調整

• 本機を設置するキッチンの高さに応じて、脚ユニットの調整脚の出代の調整をしてください。

1 カウンター下面より調整面までの高さ[H]
およびカウンター下面と隣接する
キャビネットの扉上面とのスキマ[Z]を測定する

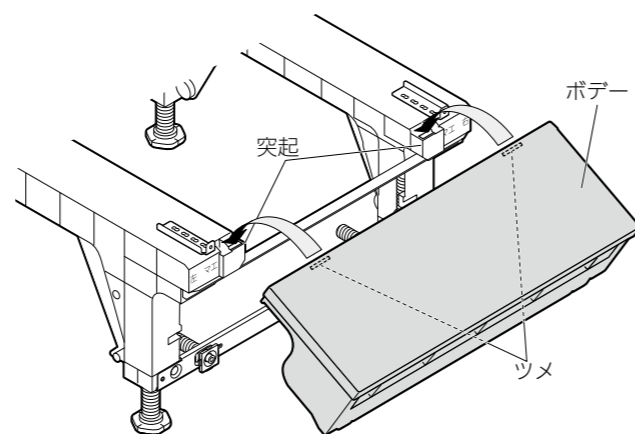
2 調整脚の出代を[B]下記の式で求める
 $B = H - 739 - Z$

3 調整脚を回転させて、[B]寸法に
なるように、出代を調整する



6-6 : 脚ユニットの設置

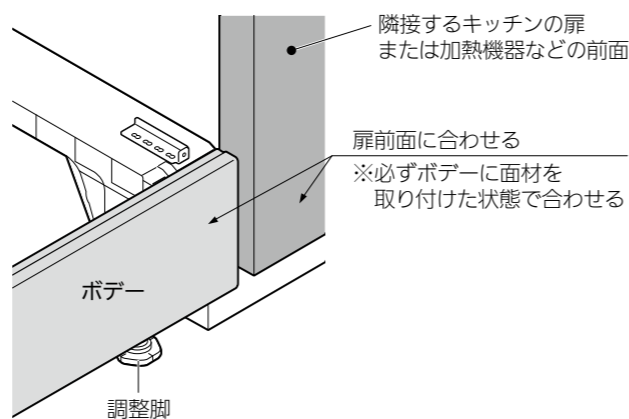
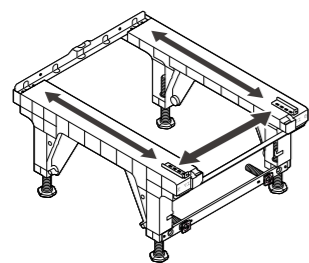
1 面材を取り付けたボデーのツメを、
台枠の突起にはめ込み、“カチッ”と
音がするまで下方を押し付けて付ける



2 脚ユニットを設置スペースにビルトインし、
ボデーの位置を調整する

• 前面：面材前面を隣接するキッチンの扉前面に
あわせる

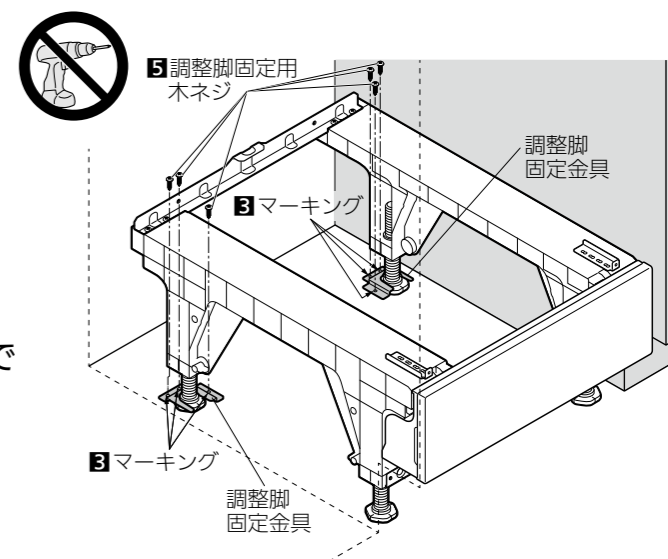
※下図の矢印箇所、水準器などを使用して、
傾きがないように調整してください。



3 調整脚固定金具を右図のようにセットし、
後部6箇所のネジ穴にマーキングする

4 脚ユニット・調整脚固定金具を取り外し、
マーキング部にφ3の穴をあける

5 調整脚固定金具を調整脚固定用木ネジ6本で
締め付ける



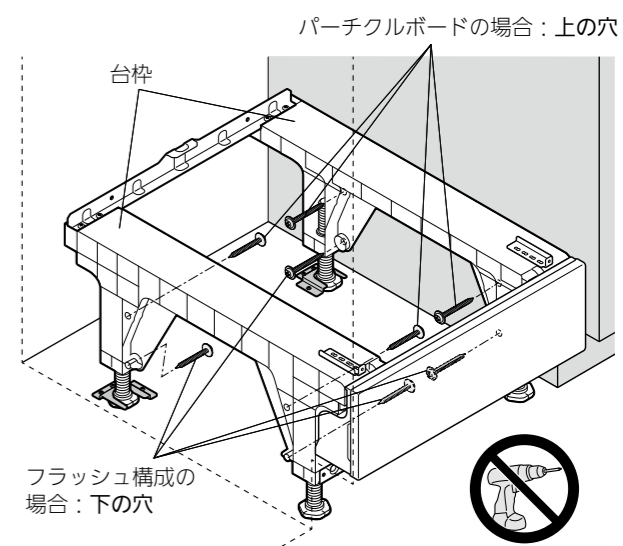
6 脚ユニットを再度設置し、木ネジ4本で
隣接するキャビネットの側板に締め付け
固定する (台枠の内側から、使用する穴を目安に
φ2~2.5(深さ5mm程度)の下穴をあけておくと、
ネジが締めやすくなります)

キャビネットの側板が

- パーチクルボードの場合 : 上の穴
- フラッシュ(中空)構成の場合 : 下の穴

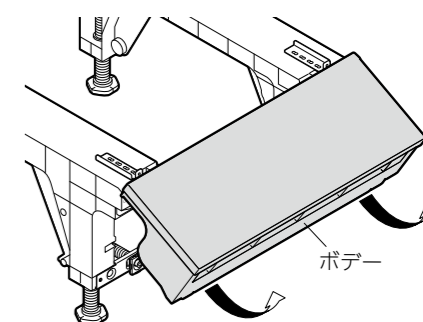
※キャビネットが木製以外の場合は、
キッチンメーカーの指示に従ってください。

※片側に加熱機器などがある場合は、
P.16の「片側が加熱機器の場合」を参照して
ください。



7 ボデーの下辺部を手前に引き、
脚ユニットから取り外す

※ボデーは「試運転」が終了するまで、
取り外した状態にしておきます。



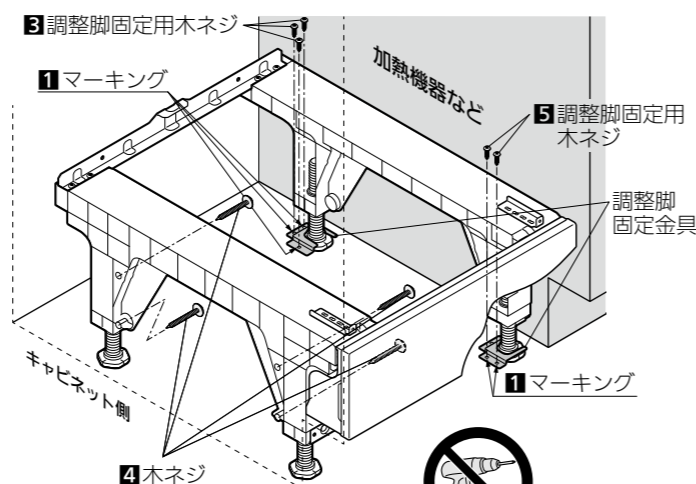
6 据付け手順 (つづき)

片側が加熱機器の場合

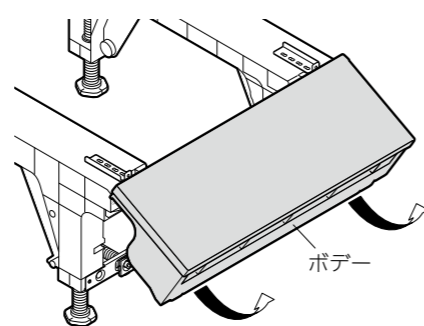
※加熱機器側には、木ネジは取り付けられないため、調整脚固定金具の取り付けが必要です。

- 1 加熱機器側に調整脚固定金具を右図のようにセットし、後部3箇所・前部2箇所のネジ穴にマーキングする
- 2 脚ユニット・調整脚固定金具を取り外し、マーキング部にφ3の穴をあける
- 3 後部の調整脚固定金具のみを調整脚固定用木ネジ3本で締め付ける
- 4 脚ユニットを再度設置して前後上下の位置をあわせ、キャビネット側の脚ユニットを木ネジ2本で側板に締め付ける
(台枠の内側から、使用する穴を目安にφ2~2.5(深さ5mm程度)の下穴をあけておくと、ネジが締めやすくなります)
- 5 前部の調整脚固定金具を元の位置にセットし、調整脚固定用木ネジ2本で締め付ける
- 6 ボデーの下辺部を手前に引き、脚ユニットから取り外す

※ボデーは「試運転」が終了するまで、取り外した状態にしておきます。

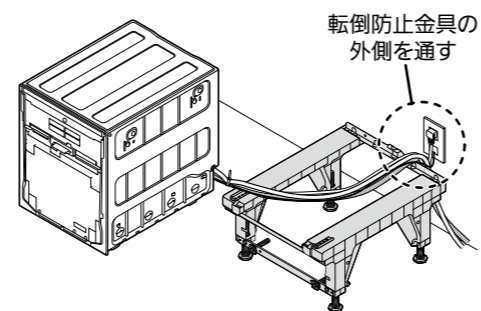


キャビネットの側板が
・パーティクルボードの場合：上の穴
・フラッシュ(中空)構成の場合：下の穴



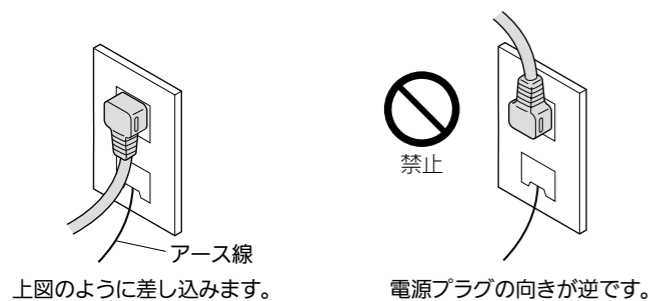
6-7 : 電源コード・アース線の接続

※電源コード・アース線は、転倒防止金具の外側を通して接続してください。



- 1 埋め込みコンセントに電源プラグを差し込む

※200V電源に差し込むと、瞬時に故障します。



上図のように差し込みます。

電源プラグの向きが逆です。

警告

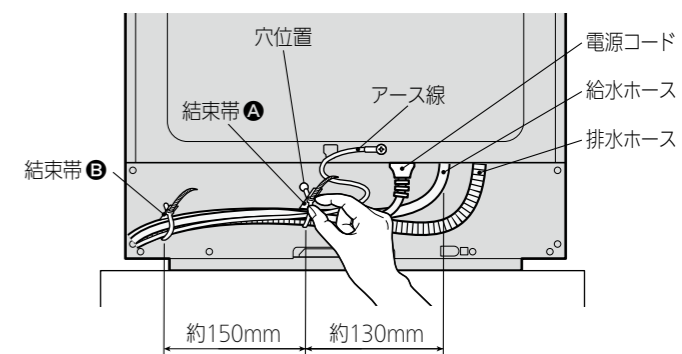
- 電源プラグはコードが下方向に出るよう、コンセントに奥まで確実に差し込む
上方向に出すとプラグの接触が不安定になり、異常発熱して発火する原因

- 2 一旦ブレーカーを切る

※ドアタッチセンサーの誤作動防止のため、必ず切ってください。

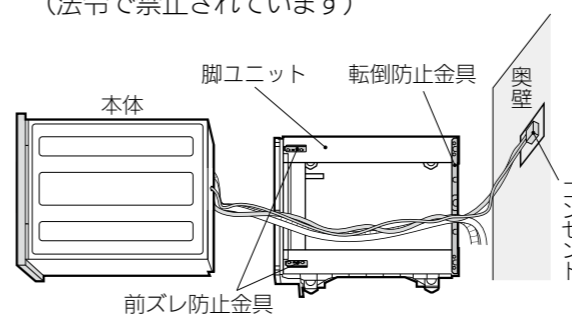
- 3 ホース、コード類を束ねる

- 結束帯(2本)で、電源コード・アース線・給水ホース・排水ホースを、右図の位置(AとBの2箇所)で束ねてください。
 - 束ねた結束帯(A側)を穴に差し込みます。
- ※本体をビルトインする時に作業をしやすくするため、また電源コード・アース線・給水ホース・排水ホースが転倒防止金具に挟み込まないようにするため、必ず束ねてください。



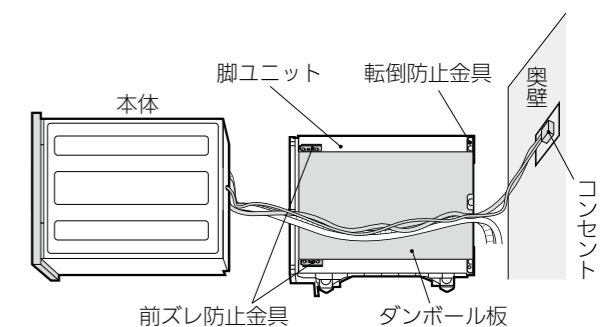
- 4 アース線をアースターミナルに接続する

※ガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には、絶対に接続しないでください。
(法令で禁止されています)



- 5 ダンボール板を脚ユニットの上に載せる

(本体を押し込むときに、束ねたホース類が脚ユニットの中に垂れ下がらないようにするため)



警告

- コンセントを床面にころがして、電源プラグを差し込み使用しない
感電・漏電や火災の原因
- 電源コードを切断したり、屋内配線ケーブルと直結したりしない
感電・漏電や火災の原因

警告



アース線を必ず接続せよ

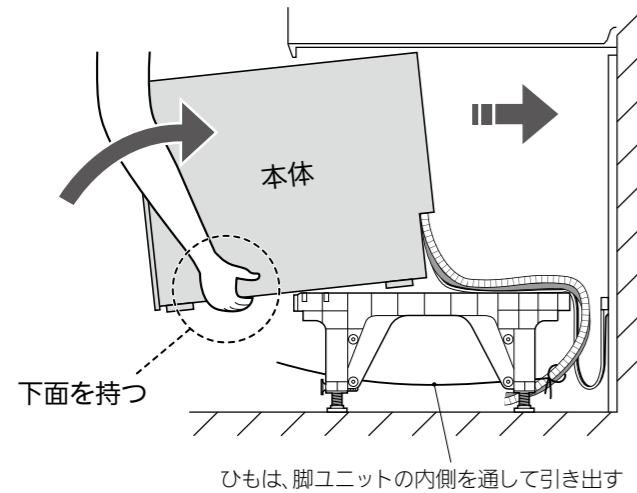
- アースを確実に取り付ける
故障や漏電のときに感電する原因
アース接地工事は、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って第二種電気工事士※がD種接地工事を行う
(アース工事は、お買上げの販売店または電気工事店にご相談ください)

※工場・ビル等への配置で、一定要件を満たす場合は第一種電気工事士

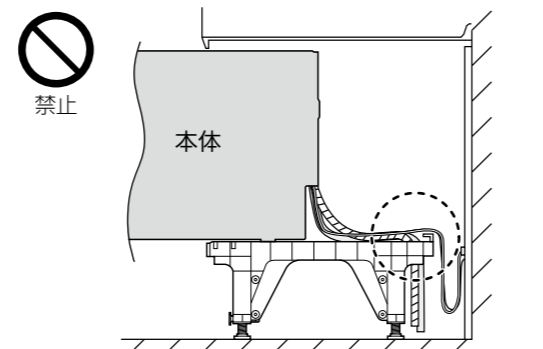
6 据付け手順 (つづき)

6-8 : 本体のビルトイン

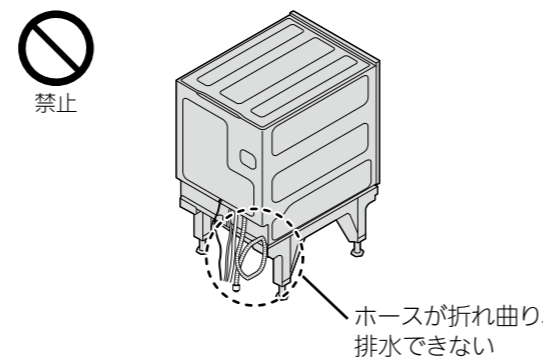
- 1** 本体の後脚を脚ユニットに載せ、脚ユニットの上をすべらせながら押し込む
※本体の下面を手で支え、ドアは持たない



※ひもなどで、給・排水ホースをしぼり、本体を押し込みながらひもを引き、給・排水ホースをたぐり寄せると作業がしやすくなります。



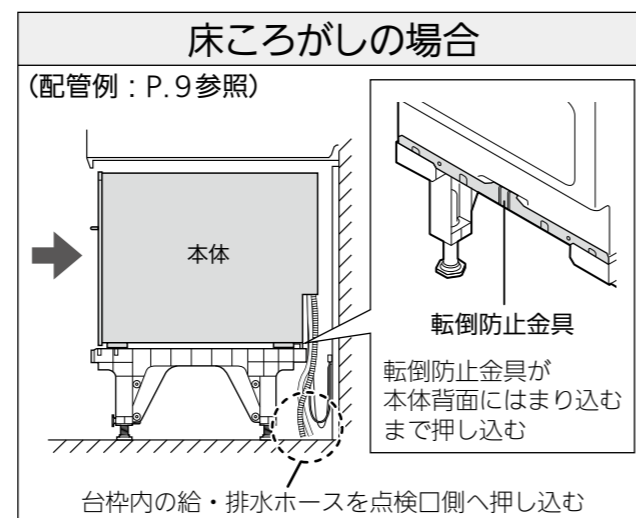
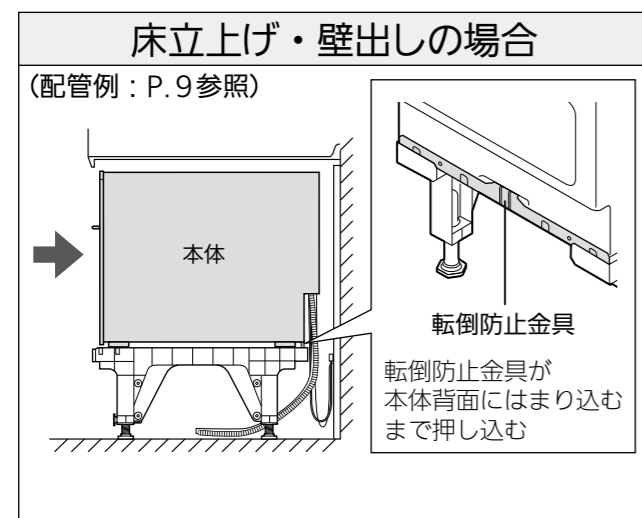
- 給・排水ホースは、転倒防止金具の内側を通さない
給・排水ホースが傷付く原因



- 排水ホースを折り曲げない

- 2** 本体の前脚が脚ユニットに載ったら、隣接する機器などに注意し、ドア中央下部をゆっくりビルトインする

※ビルトイン時に大きな力で押し込むと、転倒防止金具が変形し、正しく設置できなくなるおそれがあります。



警告

- 禁止 ● 排水ホース・給水ホース・電源コード・アース線を転倒防止金具・本体の底面や脚との間に挟み込んで傷付けない
感電・漏電・火災や水漏れの原因

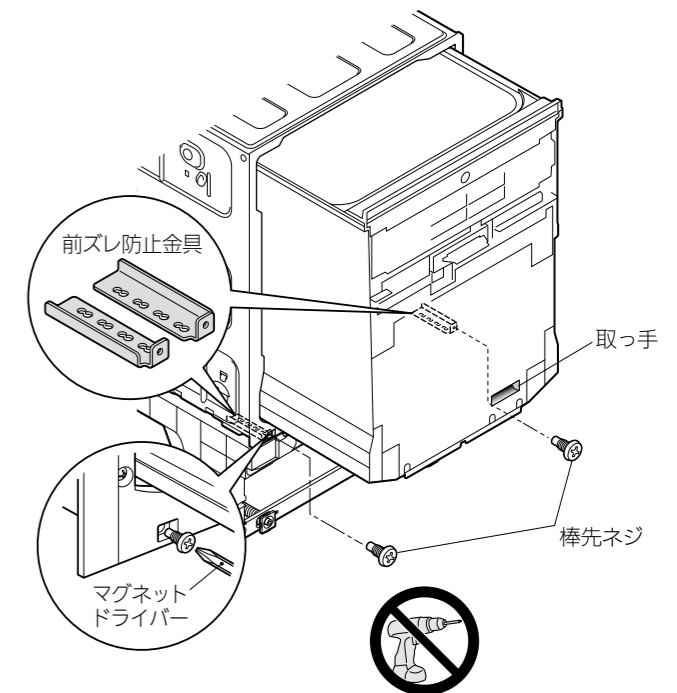
6-9 : 本体の固定

- 1** ドアを半分程度引き出して※、P.17の作業手順6-7: **5** で脚ユニットの上に乗せたダンボール板を取り出す
(本体正面から抜き出せます)

※ドアを引き出すときは、ドア前面右下にある取っ手を握って引き出してください。

- 2** ドアを半分程度引き出したまま、本体と脚ユニットを棒先ネジ2本でネジ止めする

(ネジ止めにはマグネットドライバーを使用して、本体下部の左右にある角穴より棒先ネジ2本で固定します)

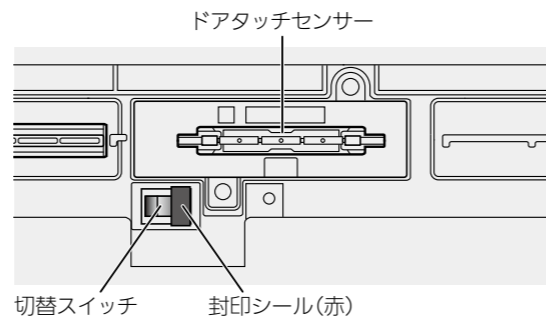


6 据付け手順 (つづき)

6-10 : ドアタッチセンサーの感度設定

木製面材や、木製面材に金属製引き手が付いている場合は、設定変更する必要はありません。

- 切替スイッチは本体正面のドアタッチセンサー下部にあります。
- 取り付ける面材の素材が金属製の場合は、ドアタッチセンサーの感度を設定する必要があります。
(工場出荷時は「ON ■■ (木製)」になっています)
封印シール(赤)を剥がして、切替スイッチを「OFF ■■」にしてください



6-11 : 面材の取り付け

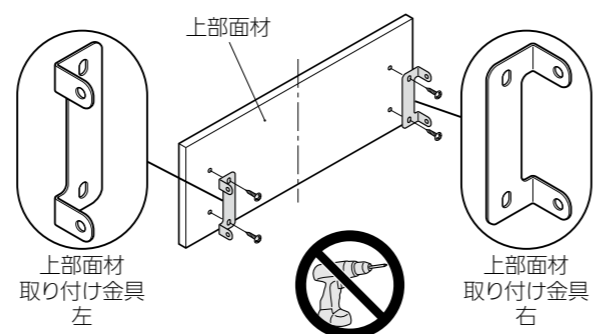
※面材は、システムキッチンとのセット販売部材です。お買上げの販売店またはキッチンメーカー様にご相談ください。
面材寸法は、P.4をご覧ください。

面材金具の取り付け

上部面材

上部面材取り付け金具を、上部面材に固定用ネジ(4×12)4本で面材の下穴に合わせて固定する

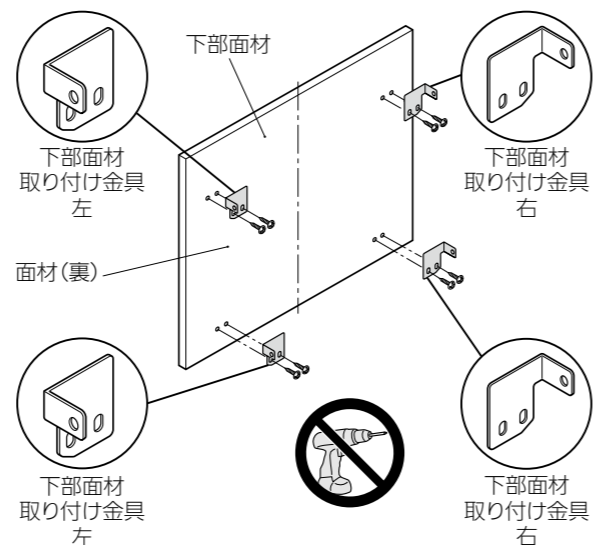
- 金具は面材の端面と平行になるように取り付けてください。
- 金具に開けられた穴は長穴になっています。標準穴位置は長穴の中央ですが、取り付け具合により調整を行ってください。



下部面材

下部面材取り付け金具を、下部面材に固定用ネジ(4×12)8本で面材の下穴に合わせて固定する

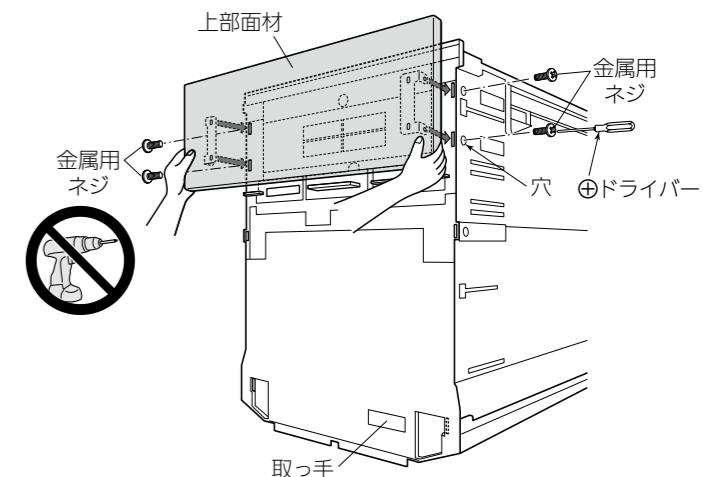
- 金具は面材の端面と平行になるように取り付けてください。
- 金具に開けられた穴は長穴になっています。標準穴位置は長穴の中央ですが、取り付け具合により調整を行ってください。



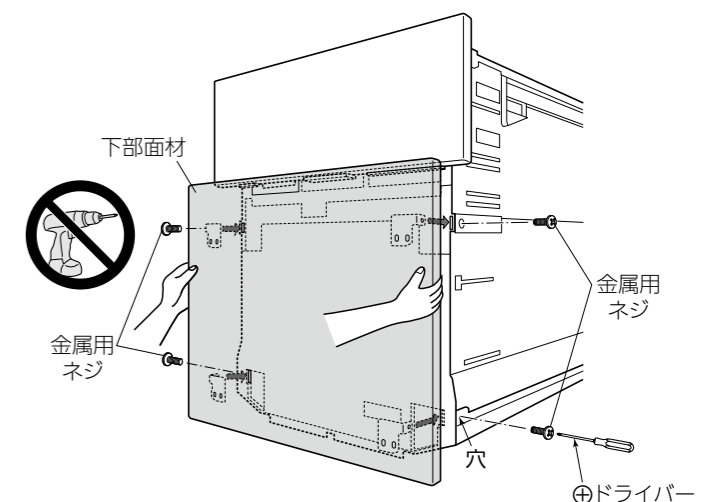
面材の取り付け

- 1 ドアを少し引き出した後※、面材金具を取り付けた上部面材を、左右の穴から⊕ドライバーで面材が傾かないように、金属用ネジ4本で締め付ける

※ドアを引き出すときは、ドア前面右下にある取っ手を握って引き出してください。



- 2 上部面材を取り付けた後、面材金具を取り付けた下部面材を、左右の穴から⊕ドライバーで面材が傾かないように、金属用ネジ4本で締め付ける



取り付けのポイント

状況	対処方法
• 本体と面材に隙間が開く	• 一旦、左右の金属用ネジを緩め、面材を前面から押し、左右の金属用ネジを締め直す
• 上部面材とドアタッチセンサーに隙間が開く	• 上部面材取り付け金具を、なるべく上側に取り付け直す(金具の長穴を使って)
• 下部面材とドアタッチセンサーに隙間が開く	• 下部面材取り付け金具を、なるべく下側に取り付け直す(金具の長穴を使って)

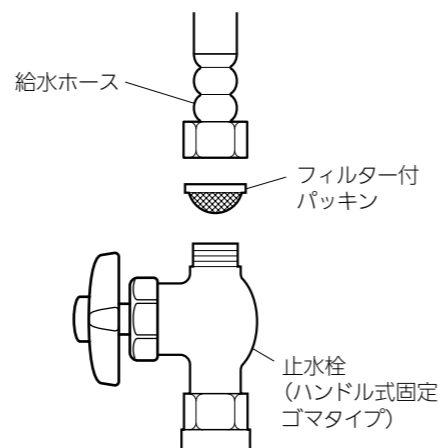
7 給湯(給水)管・排水ホースの接続

7-1 : 給湯(給水)管との接続

止水栓にフィルター付パッキンを入れ、給水ホースを確実に接続します。

(フィルター付パッキンは、給水ホースにテープ止めされています)

※ナットは手で軽く締め込んだ後、約半回転ぐらい締め付けてください。適正締め付けトルクは 5 ~ 10N・m(50 ~ 100kgf・cm)です。
(締め付け作業は、市販の工具(スパナなど)を2本使用して締め付けてください)



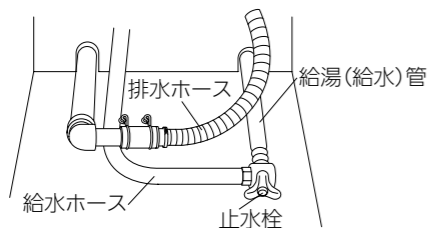
7-2 : 排水ホースの接続

1 排水管(HT20)に排水ジョイントを差し込み(30mm以上)、ホースバンドで止める

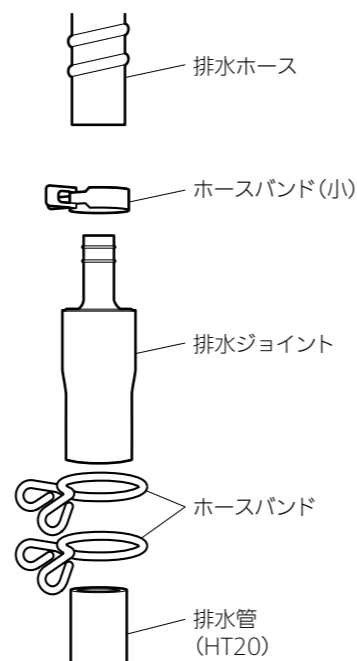
※接着剤使用禁止(保守時本体が取り外せない)

2 排水ホースは、給水ホースの上を通るようにする

※接着剤使用禁止(保守時本体が取り外せない)



※排水ホースに折れや、ねじれが無いことを確認してください。



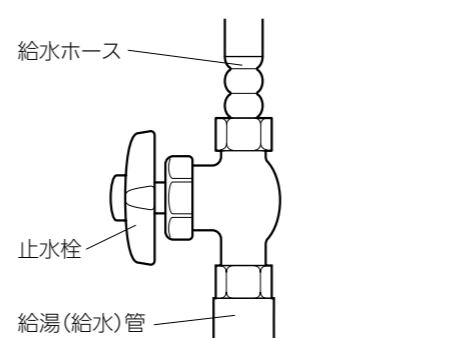
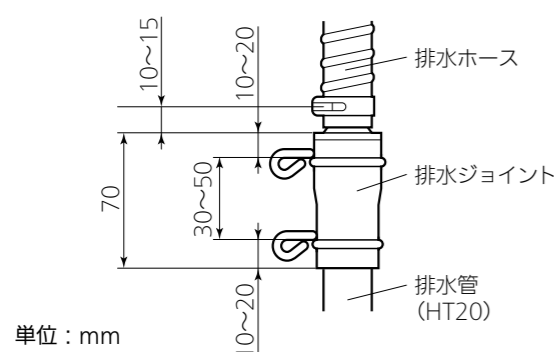
注意



●排水ホースは切断しない
水漏れの原因

●排水ホースを切断した場合は、無償保証できません。

給・排水ホース接続完成図



8 部品取り付け方法

回転タワーノズル、残さいフィルター、小物入れ、下かご、上かごを定位置に取り付ける

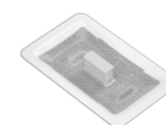
1 回転タワーノズル

洗浄槽の中央突起部に回転タワーノズルを差し込むロックはありません。取り付け後、軽く回ることを確認してください。

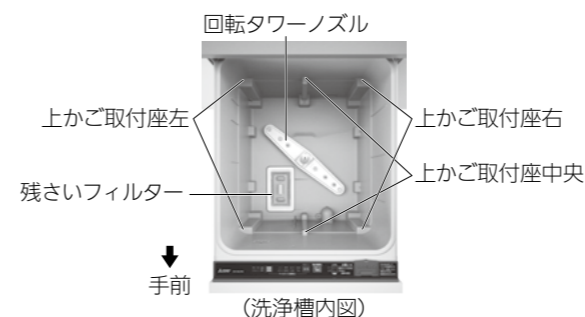


2 残さいフィルター

洗浄槽左手前の湯わかしヒーター格納部に、残さいフィルターを取り付ける溝からズレていないか、確認してください。

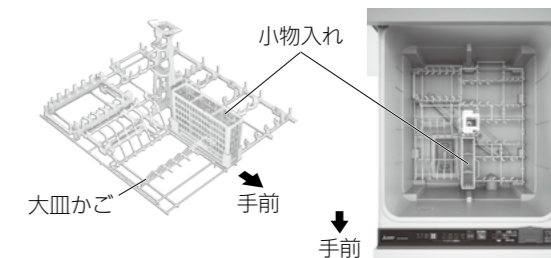


回転タワーノズルと残さいフィルターを、下図のように取り付ける



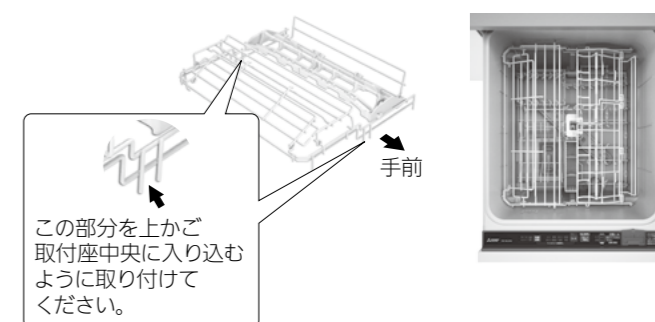
3 下かご

下かごは、小物入れを取り付けたまま、大皿かごが洗浄槽の手前側になるように取り付ける



4 上かご

洗浄槽中央・右側・左側の突起部に掛かるように取り付ける



9 自動ドアオープンの確認

1 ブレーカーを入れる

2 ドアタッチセンサー部に触れて、ドアが開くか確認する

- [] 部分を2本以上の指先でしっかり触れてください。
- ドアは全開しません。



ドアが開かなかった場合、一度ブレーカーを切り、再度ブレーカーを入れ直す

※ブレーカーを切らずに面材を取り付けると、ドアが開かない場合があります。

10 据付け後の確認(チェックリスト)

- 据付けが完了しましたら、下表に従って点検してください。不具合がありましたら必ず直してください。(機能が確保できないばかりか、安全性が確保できません)

点 検	点 検 内 容	チェック	
機器及びその周辺	ド ア の 開 閉	他の機器への障害はありませんか。	
	転 倒 防 止 金 具 前 ズ レ 防 止 金 具	転倒防止金具及び前ズレ防止金具は取り付けましたか。	
	面 材 の 固 定	金属用ネジ(8本)で面材を締め付けましたか。	
給湯(給水)・排水接続	給湯機との接続の場合	指定する給湯機に接続されていますか。(設定温度60℃以下)	
	フ ィ ル タ ー	給水ホースと止水栓との接続部にフィルターを挿入しましたか。	
	排 水 ホ ー ス	排水管に排水ジョイントを確実に接続したことを確認しましたか。また、押しつぶされたり無理に折れ曲がったりしていませんか。	
電 気 接 続	電源コンセントは専用回路で、電源プラグ125V、15A以上のアースターミナル付埋込みコンセントに接続しましたか。		
	アース線を接続しましたか。		
試 運 転	P.25~26の「11 試運転」を行い、正常に動作しましたか。		

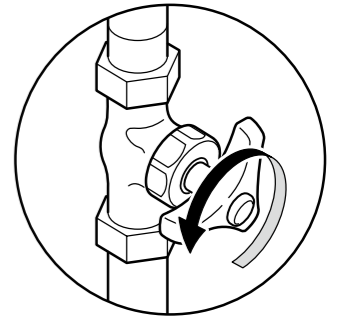
- 下表の項目は、P.25~26の「11 試運転」実施後に確認してください。

点 検	点 検 内 容	チェック
試 運 転 後	給・排水ホースなどからの水漏れがないか確認しましたか。	
	止水栓は、開けたままになっていますか。 (本機への通電を切る場合は、止水栓を閉めてください) お客様に引き渡すまでは、必ず家屋の元水栓を閉めてください。	
	電源スイッチが「切」の状態、庫内の給水口から水が出ていないことを確認しましたか。	

11 試運転

11-1：試運転方法

- お客様(発注者様)立ち会いで、試運転を行ってください。
 - 据付け終了後、試運転を必ず実施してください。
試運転を行わなかった場合、下水ガスが排水配管を通り、食器洗い乾燥機に逆流し、においの原因や金属部品の腐食の原因になり、故障のおそれがあります。食器洗い乾燥機本体内部の排水経路に排水トラップが設けてあり、試運転を行うことによって、排水トラップ内に洗浄水を貯め封水し、下水ガスの逆流を防止することができます。
- ※本機への通電・通水が不可状態で試運転が行えない場合は、通電・通水が可能になった時に、必ず試運転を行ってください。
- ※本機への通電がない場合は、止水栓は開けないでください。

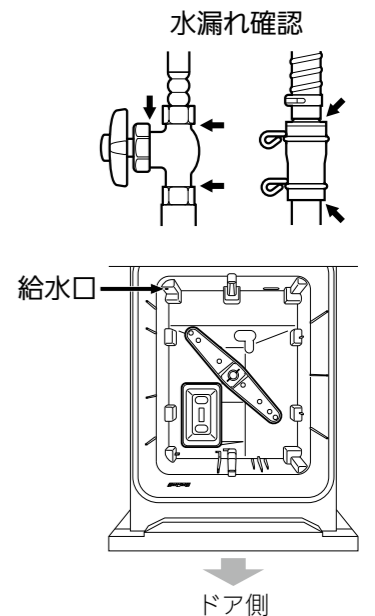


EW-45LD1		表示
操 作 手 順		
	1「コース」を押し、電源がONの状態にする	標準 ランプ点滅
	2「スタート一時停止」を約6秒長押しする(約2秒長押しした時点で「ピッ」と音がし、ランプ表示が消えるが、そのまま押し続ける)	標準 念入り 調理器具 ランプ点滅 (サービスモード表示)
	3「スタート一時停止」を押す	標準 念入り 調理器具 ランプが消灯し、 お手入れ ランプ点滅 (試運転モード表示)
	4「スタート一時停止」を押す	お手入れ ランプ点灯 (試運転モードスタート)
※あやまって「コース」を押した場合、別のモードになります。ブレーカーを切り、再度1からやり直してください。		
※洗浄3分、乾燥2分を行い、通常コース選択に戻る(約8分の工程です。洗浄音と排気口風をご確認ください。洗浄中も排気口から風が出ますが、異常ではありません)		

11-2：確認項目

- 運転中、給・排水の接続部や止水栓、その他からの水漏れが無いことを、十分確認してください。
- ドアを開け、庫内の水が排水されることを確認してください。(庫内に水が残っている場合は、排水ホースのつぶれ、ねじれが考えられます。排水ホースを点検し、不具合を直してください)
- 電源スイッチが「切」の状態、庫内の給水口から水が出ていないことを確認してください。

- ※試運転後は、止水栓を開いたままにしておいてください。
- ※本機への通電を切る場合は、止水栓を閉めてください。
- ※お客様に引き渡すまでと長期間居住されない場合は、万が一の水漏れを防止するため、必ず家屋の元水栓を閉めてください。



11 試運転 (つづき)

11-3 : 異常報知について

● 試運転でブザーが鳴り続け、表示部が点滅してる場合は、表の内容を確認してください。

EW-45LD1		
表示	原因	処置
エコ 標準 念入り 低温 お手入れ 調理器具 乾燥 予約	給水不良 断水や水道栓の開け忘れなどで給水ができないため	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源スイッチを「切」にする ● 断水の場合は、断水の回復を待って運転する ● 水道栓(元栓および収納キャビネット内の止水栓)は、必ず開栓する ● 電源(ブレーカー)を切る場合は、止水栓は必ず閉める
エコ 標準 念入り 低温 お手入れ 調理器具 乾燥 予約	機内の水漏れ	<ul style="list-style-type: none"> ● 修理が必要です。 ※止水栓(キャビネット内)を閉めたうえ、お買上げの販売店にご連絡ください。(修理完了まで、ランプが点滅します) ● 電源(ブレーカー)を切らないでください。
エコ 標準 念入り 低温 お手入れ 調理器具 乾燥 予約	排水不良	<ul style="list-style-type: none"> ● 排水ホースの折れなどを、確認してください。折れなどがない場合は、修理が必要です。 ※止水栓(キャビネット内)を閉めたうえ、お買上げの販売店にご連絡ください。(修理完了まで、ランプが点滅します)

● 上記の処置後、再度試運転を行ってください。

● 上記以外の表示が出た場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら(こんな表示が出たら)」のページを参照ください。

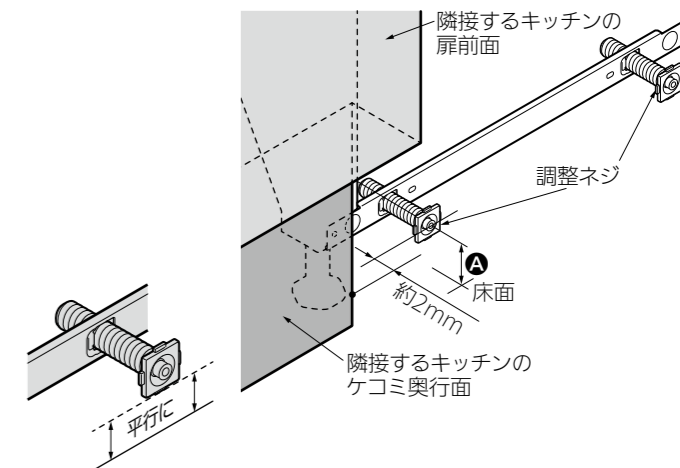
12 試運転後の作業

※ケコミカバーとネジはそれぞれ「黒」と「白」があります。ケコミの色にあわせてお選びください。

12-1 : ケコミカバーの取り付け

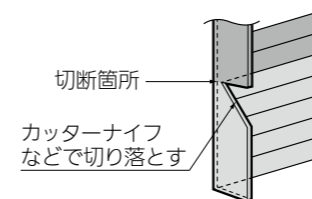
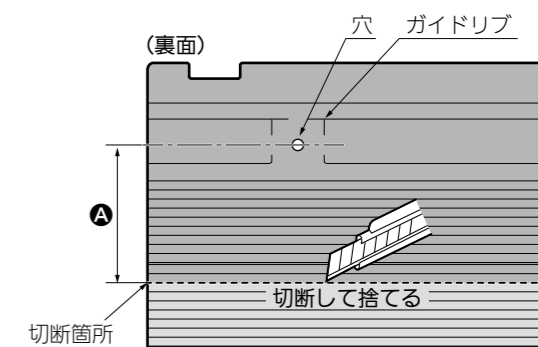
1 調整ネジ(左右2箇所)の前面が、隣接するキッチンのケコミ奥行面より約2mm奥まった位置になるように調整する

- このとき、調整ネジの頭部の四角の一边を床面と平行にします。(調整ネジは90°回すごとに、出代が1mm変わります)



2 ケコミカバーを、裏面のV溝にそってカッターナイフなどで切断する(キッチンの高さにより、切断箇所が異なります)

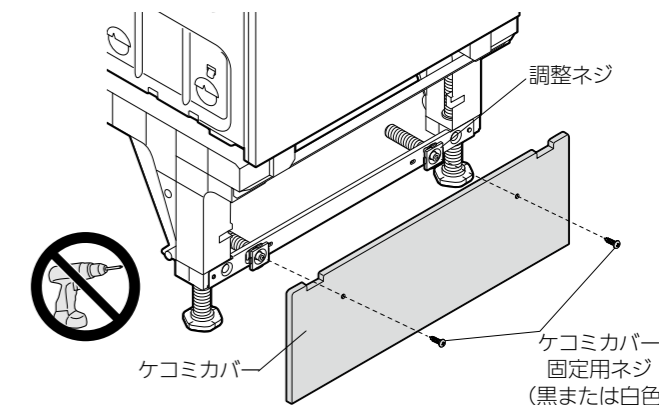
- ① 床面と調整ネジの穴の高さAを測る
- ② Aの長さにあわせて、ケコミカバーを切断する
 - 左右のリブは、下図のように切断する



3 カッターナイフなどで、切断面の端面処理をする(切傷防止のため)

4 裏面のガイドリブ(手順2の図参照)に調整ネジの頭部をはめ込み、ケコミカバー固定用ネジ2本で押し付けながら締め付ける

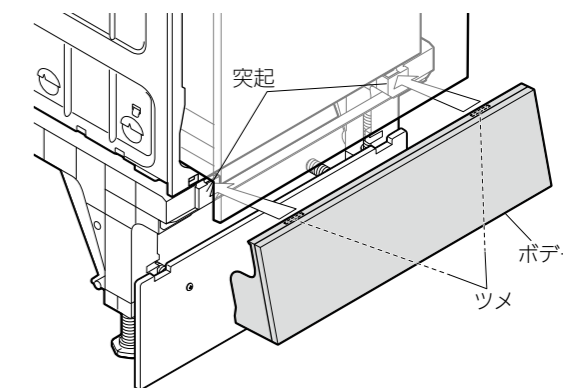
- ケコミカバー固定用ネジの色は、ケコミカバーの色にあわせてください。
- 隣接するケコミと面が合わない場合は手順1で、調整ネジを再調整してください。(調整ネジは90°回すごとに、出代が1mm変わります。)



- 必ず試運転後にケコミカバーを取り付けてください。床面と接触し、浮き上がる原因
- ケコミカバーが浮き上がってる場合は、Aの長さより短めに切断して取り付けてください。

12-2 : ボデーの取り付け

1 ドアを引き出して、面材を取り付けたボデーのツメを、脚ユニットの突起にはめ込み、「カチッ」と音がするまで下方を押して取り付ける



12 試運転後の作業 (つづき)

12-3 : 面材の高さ確認・調整

面材の高さ確認・調整

●面材の高さが低い場合は、「高さ調整スペーサー」で下図のように調整を行ってください。

1 ドアを半分程度引き出して、本体と脚ユニットをネジ止めた棒先ネジ2本を外す

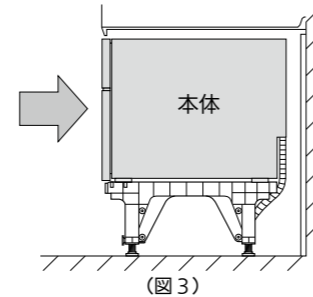
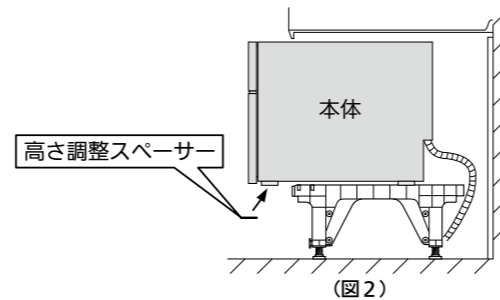
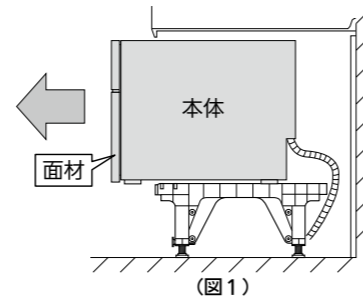
2 キャビネット内に設置した本体を、1/4くらい引き出す(図1参照)

※本体の底面にある、脚が現れるまで引き出してください。

3 本体の底面にある、左右それぞれの脚に「高さ調整スペーサー」を貼り付ける(図2参照)

※高さ調整スペーサーの厚さは1mmです。

4 再び、本体をキャビネット内に設置する(図3参照)



警告



禁止

●排水ホース・給水ホース・電源コード・アース線を転倒防止金具・本体の底面や脚との間に挟み込んで傷付けない

感電・漏電・火災や水漏れの原因

5 本体をキャビネット内に設置した後、ドアを半分程度引き出して、本体と脚ユニットを棒先ネジ2本でネジ止めする

ボデーへの面材の高さ確認・調整

取り付けたドア面材の下端と、ボデー面材との隙間(約5mm)が確保されているか確認する

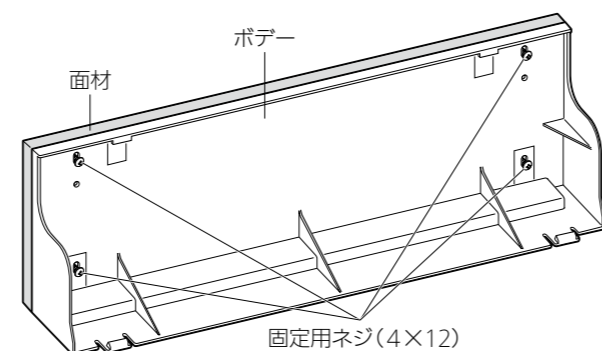
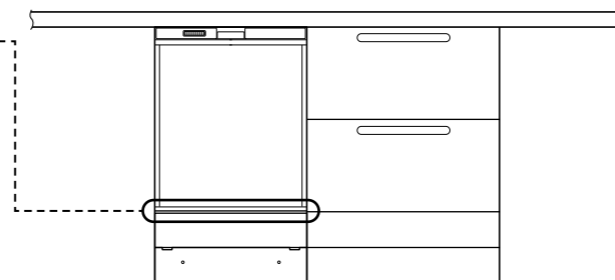
●高さ・隙間があっていない場合は、下記のように調整を行ってください。

1 ボデーを取り外す

2 取り付けしている固定用ネジ(4×12)4箇所を緩める

3 面材を動かし、適正な位置に調整する

4 調整後、再びボデーを取り付ける



お客様への説明

- 別冊の取扱説明書に従って、正しい使いかたをご説明ください。特に「安全のために必ずお守りください」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようにご説明ください。
- ご使用になられるお客様がご不在の場合、発注者(オーナー・ゼネコン)様や管理人様へご説明ください。
- 保証書に必要な事項を記入のうえ、保管のお願いをしてください。
- この据付説明書は据付け終了後、お客様へ必ずお渡しください。なお、(同梱の)取扱説明書および保証書は、必ずお客様にお渡しください。
- お引き渡し時、お客様に止水栓の位置をお知らせください。
- ご使用の前に下記をご確認いただくようご説明ください。
 - ・ブレーカーは「入」にしていますか？
 - ・止水栓は開いていますか？
 - ・給湯温度は60℃以下になっていますか？

寒冷地で冬季に長期間ご使用にならない場合の水抜き方法(機内給水経路)

寒冷地で冬季に長期間ご使用にならない場合は、下記の水抜き方法を説明ください。

1 止水栓を閉じる

2 水抜き栓下部に水受けを置き、水抜き栓を取り外す

●水受けは約100mLが受けられる皿またはタッパーを準備する(高さ25mm以下)

3 電源を入れて、「スタート一時停止」を押す(給水弁が開放される)

●運転は乾燥専用以外いずれも可

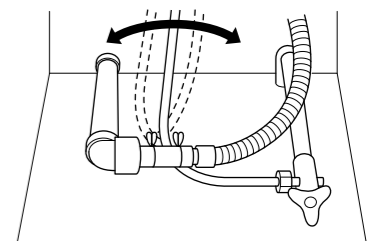
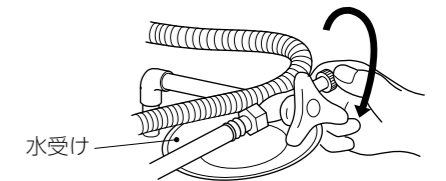
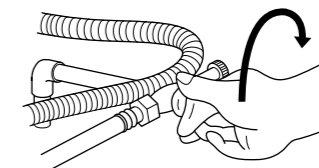
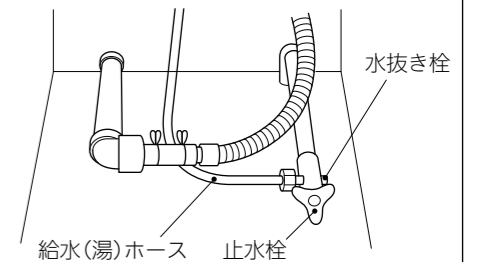
4 給水(湯)ホースを左右に振ったり、軽くたたく

●水受けに残水が排出された後も、水抜き栓開口部に乾いた布を押し当て、内部の水を吸い取る(水滴が落ちなくなるまで)

5 電源を切って、排出水进行处理する

6 水抜き栓を取り付ける(必ず守ること)

●止水栓は再使用するまで、閉じたままにする



三菱電機株式会社
三菱電機ホーム機器株式会社
〒369-1295 埼玉県深谷市小前田1728-1